

「市民向け講座」は学びの入り口

2025年度の「市民向け講座」は、8月末の「おもしろ算数教室（1・2年生）」で前半を終えました。5月にスタートした「心と体のリラックス」以降、知識を深め趣味を広げる講座に多くの参加をいただきました。夏休みの小学生を対象にした「クワガタムシ観察」は、子どもたちの笑顔が忘れられません。

実は、今期開講に当たり少し不安がありました。申し込みや当日の受付方法に民間企業のオンラインシステムを導入したからです。不安は少なからず的中しました。システムは広く普及していると考えられるものでしたが、アカウント登録など煩雑に感じた方もいたようでした。事務局の周知、説明が十分でなかったのではないかと宿題として受け止めています。

これまで開講した講座は、その複数が定員となるなど手応えを感じていますが、それで「良し」とするわけにはいきません。一人でも多くの方に参加していただくことも大切ですが、それ以上に、講座が受講者一人一人に有意義なものであることが最も重要です。

ところで、「知る」と「学ぶ」ことは同義かな、と考えることがあります。確かに、本を読んだり講義を受けたりして未知のことを「知る」ことは学ぶことではありません。ただ、知ったことで満足し、そこで終わらせる傾向はないだろうか。知り得た知識を自分なりに深掘りし、「知る」ことを重ねることで理解をより深める。これが「学ぶ」ということなのかな、と想ったりもします。つまり「知る」ことは「学び」の第一歩だと。「言葉遊び」が過ぎるでしょうか。

9月からの後半は、現代社会を見つめる講座（「自殺」「平和」）があります。スポーツ分野の知見を競技者や指導者に生かすだけでなく、日常生活にも取り入れることを視野に入れた講座があります。もちろん、趣味を楽しむ講座も。

難しく考えないで、「なんか面白そう」と思った講座があれば、その扉をノックしてください。扉の向こうには、あなたの暮らしを豊かにする「何か」がきっとあるはず。「市民向け講座」は「学び」の入り口です。